環境・エネルギー分野では、環境負荷低減の観点からは、二酸化炭素排出の少ない原材料又は生成プロセスとしての生物資源の活用が進展する。特にこれまで廃棄されてきた未利用の生物資源の活用技術の向上は重要な課題である。

他にも、ゲノム情報、遺伝子・タンパク質発現情報等いわゆるオミックス情報解析技術、少量サンプルでの多項目解析技術、反応場の理解や計測技術の進展により、医療診断技術や化学品の生体反応への影響等、生物と化学の相互作用の理解が進むと考えられ、オミックス情報を元にして有用な情報を探り出すデータマイニング技術が進歩し、細胞の理解の進展とともに、有用物質製造のための細胞育種に貢献することが期待される。

さらに、有用な生物や遺伝子探索のためのリソースが拡充・整備され、生物多様性の保全と有用物質生産・産業利用のための調和をもった展開が望まれる。

我が国はものづくり技術等において世界をリードしてきたように、当該技術の分野でも高度な生産プロセスや品質管理技術を確立し、我が国らしく、高品質かつ気配りが届く製品開発を通して世界に貢献することが期待されている。

また、IoT、ＡＩ等の活用によって、バイオに係る技術の高度化やそれに関連した新たなサービスが創出される可能性がある。例えば、ディープラーニング等のＡＩ技術を活用することで、膨大な遺伝情報の中から雛を握る遺伝情報のみを高精度に抽出し、当該情報をベースにゲノムの設計に関する研究を推進するなど、更なる技術の高度化等の可能性を有している。川下製造事業者等の産業分野においても、より一層広がっていく可能性を有している他、中小企業・小規模事業者が市場に近い事業領域に展開していく可能性もあり、こうした新たな技術を活用した積極的な取組が求められる。

⑶　川下分野横断的な共通の事項

当該技術の川下製造業者等が抱える共通の課題及びニーズ並びにそれらを踏まえた高度化目標を以下に示す。

①　川下製造業者等の共通の課題及びニーズ

ア．高度化・高品質化

近年、生物機能の理解が急速に進展し、当該技術の高度化・高品質化への課題・ニーズが高まってきている。具体的には、オミックス情報解析技術等により細胞の理解をより一層加速し、有用物質製造のための細胞育種を強力に推し進めるという課題があり、その情報の高度利用を促進する装置、計測機器及び生物機能の向上を促す試薬の開発が求められている。さらに、生物素材は極めて多様な成分を含むことから、従来の精製技術を用いて高純度・高品質な生産物を得るためには複雑かつ時間のかかる精製工程が必要であるという課題がある。このため、従来技術にとらわれないより効果的かつ効率的な精製試薬及び装置の開発、品質を保証する技術の開発が求められている。

イ．環境対応

当該技術に対しては、排出二酸化炭素削減等、環境負荷低減に資する生物資源利用の課題・ニーズは高まる一方である。

ウ．低コスト化

比較的安価な製品に対する低コスト化の課題・ニーズだけでなく、高機能かつ高価格品に対するコスト構造の改善も求められている。例えば、二酸化炭素の排出量が低減可能とされる生物資源を原材料とする生物機能活用法については、従来の化石燃料を原材料とする製品を代替を想定し、その製造コストの差を埋める技術開発は不断に継続する必要がある。また、新興国が成長市場として注目を集める中、新興国市場のボリュームゾーンを開拓していくため、日本市場や先進国市場向けの製品とは異なる仕様の製品を低コストで供給することが求められている。

②　高度化目標

ア．高度分析技術の開発及び利用

川下製造業者等のニーズとして、先進的な技術を用いた分析とそれを実現する機器及び分析機能を利用した技術を開発する。

イ．製品の安全性の確保

医薬品や化成品等に用いられる生物資源等について、生産、流通、使用時における安全性を確保するための技術を開発する。

ウ．排出二酸化炭素削減等に資する生物資源の利用

環境対応へのニーズが高まっていることから、生物資源の利用及び製造における化学プロセスを生物機能によって代替する技術を開発する。

エ．生産性の向上

新興国等の競争が激しい比較的安価な製品だけでなく、高機能・高付加価値製品のコスト構造の改善を求められていることから、コストを低減し生産性を向上する。

オ．IoT、ＡＩ等によるデータ利活用の推進

IoT、ＡＩ等のデータ利活用に関する急速な技術革新が進展することによって、バイオ技術に関するあらゆるプロセス等を革新し、新たなサービスが創出される可能性がある。こうした技術を積極的に活用し、上記ア．からエ．までに掲げるバイオに係る技術の高度化目標を実現する。

⑷　川下分野特有の事項

当該技術の川下製造業者等が抱える特有の課題及びニーズ並びにそれらを踏まえた高度化目標を以下に示す。

１）医療・健康・介護分野に関する事項

医薬品・診断薬産業においては、多様化する川下製造業者等のニーズに基づき生物としてのヒトの理解、疾病の理解が分子レベルで求められている。具体的には、分子レベルでの生物や疾病の理解のための情報の探索及び解析に加えて、産業目的にあった情報の有効利用を促すシステムの構築に資する、情報解析技術の改良等の課題が指摘されている。また、発症前の予防・先制医療やヘルスケア分野が進展していく可能性もあり、こうした分野への当該技術への期待も大きい。

①　川下製造業者等の特有の課題及びニーズ

ア．オミックス情報等の収集、解析
イ．情報利用を促すシステム構築
ウ．情報解析技術の高度化
エ．生体試料を利用した測定・解析・開発技術
オ．人体における効果・評価
カ．日常における健康状態の測定・解析

②　高度化目標

ア．生物としてのヒトや疾病の個体・細胞・分子レベルでの理解に資する解析技術の高度化
イ．多量の分析データを解析し、有用な情報を見出す技術の高度化
ウ．社会的ニーズの高い創薬標的分子の探索・評価技術の向上
エ．疾病治療に有効な生理活性物質の探索と大量生産技術の向上
オ．活性分子としてのタンパク質その他生体物質の高機能化
カ．機能・有用性・安全性の立証、関連データ取得・利活用の推進